



ひとにやさしく がんばりすぎずに継続し勇気をもって しっかり学ぶ 東っ子! 413名

【今回の学校だよりは、電子媒体のみでの配信となります。児童用には教室に先生方が掲示していただいています。()】

飯塚東交流センター藤川和夫先生に交流センターまつりの歴史を学びました。

ありがとうございます 3年生 (総合的な学習の時間)



「3年生は、総合的な学習の時間「東っこ大作戦」の学習で、飯塚東文化祭実行委員会でご活躍をされている飯塚東交流センターの藤川和夫先生をお招きして、3年生として11月8日(土)の文化祭1日目に出場する目的や、交流センターの子ども達をはじめとする市民の方々への役割やかかわり、地域の方々の願いや、東交流センターの職員として飯塚東小学校や飯塚東児童クラブや飯塚東保育園、山内幼稚園等の子ども達に対する期待感についてお話しくださいました。藤川先生は子ども達にわかりやすいようにパワーポイントのスライドで参加団体の日頃学ばれている成人教育講座の様子や作品の写真を使って見せてくださったので、期待を膨らませて聴いたり質問したりすることができました。板野先生や永水先生

のお話によりますと藤川先生のお話の中で「後継者不足」が喫緊の課題であると感じられたようです。藤川先生は、「後継者である若い方をスカウトするのではなく、まず、児童の頑張りや11月8日(土)に見に来ていただくことをスタートとして若い世代が、自分も地域の一員としての仕事(ボランティア)をしてみたい。地域の皆さんってハートが熱いと感じてもらふこととかがえていますので、バザーや、サークルの地域の方の催し物もありますので、お家の方を誘ってぜひ、みなさんのステージをみに来てもらってほしいです。そこから、地域の絆が結ばれるきっかけとしたいです。」とおっしゃったことが印象に残っていますと私に伝えてくださいました。:この写真は板野先生からいただきました。()

～たとえば10年後の花火の晩～♪ 作詞・作曲 Yuming [song by REIMY] 『One hour of love is a thousand years of loneliness 』

飯塚市立飯塚東小学校は今年度

全学年(1～6年生まで各学年種目において)安全面と発達段階を考慮した友情を高め合う全員リレーを各学年ごとに行います。

手前味噌のお話かとおっしゃる方がいるかもしれませんが、8月に、全国小学校体育研究会の研修会が愛知県豊田市で開催されましたので私は、福岡県小学校体育研究会筑豊地区副会長として参加してまいりました。研究協議会の焦点は2030(R12)年に再編される新学習指導要領の動向についてでした。鈴木一郎教授のお話では、体育の学習の目的は、体力の向上が主ではあるものの、体育の授業の時間だけで体力の向上は見込めない。体育の授業がきっかけとなり、正しく技能のポイントや知識を学んで友達と学習を通じ楽しさや喜びや日々の練習の延長線上に体力は向上するという体育の学習の根幹は揺るがない。指導のポイントとして、個別最適な学びの一助となるタブレットで動画を確認する、録画して見合う、作戦を立てるなどICTの活用や、ポートフォリオノートとしての運動の記録など、教材教具の効果的な活用と、不易と流行としてのルールや方法、場の工夫、号令等、適材適所で活用していくこと。温暖化による学習環



2年生の皆さんのお試しリレー練習光景

境の整備も留意しないと子ども達の身体に影響も出てくる。最後は、子ども一人ひとりが「非認知の部分（社会情動的スキルなどのコミュニケーション能力やリーダー性、他者との協働やおもしろいやり、運動を楽しもう・頑張ろうとする意欲、自尊心、自信、自分をコントロールする力）の育成」が体育科で期待されており、体育科の最後に大切なのは、子ども達相互に感動を与える教科であること。と締めくくられました。（2枚目に続きます。長くなってごめんなさい。）

実践発表された、愛知県内の先生にインタビューすることに成功し、私は、次のような質問をしました。「では、日常の体育の発表の場である運動会で、「非認知能力を育む」ためには、ただのかけっただけでは、「運動の楽しさや喜び、運動会に向けての練習による子ども相互の協働や、コミュニケーション能力等」は育ちませんよね。低学年でリレーをされてあるところはどれくらいに増えていますか？」と伺いますと、「午前中で終わる時間の関係もありますが、約半数がかけっただけからリレー形式に変わりつつあります。」とおっしゃいました。私は、全国大会であった先生に、「福岡県でも非認知能力も高め合う実践校が増えるように努力します。」と誓って別れました。9月の最初に、福岡市南区で福岡県小学校体育研究会の会議（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課の指導主事様も同席いただいている会議）に参加した際に私は、県内屈指の体育のリーダー校の校長先生方約30名の方だけに質問と提言をいたしました。「夏休み後に今から2か月余りも練習期間がある中で、1年生や2年生にかけっただけの練習をさせて、運動の楽しさ喜びを感じる児童が育つでしょうか？直線しか低学年は無理と思っているのは小学校の教員だけだと思います。保育園や幼稚園の運動会で年長さんがリレーをされている所が私の調査では約9割でかけっただけの保育園や幼稚園は1割もありません。かけっこ（徒競走）して「うれしい」と言うのは1着の子だけではないのでしょうか。2か月間もの間、直線だけを走る練習を動物でもしませんし、低学年でもリングバトンを使ってバトンタッチ後に止まるなど安全性を確保する練習こそが大切なのは？と申しましたところ、「そういえば自分も子どもの頃、地区リレーで1年生もリレーしとった。しとった。」とか、「孫の幼稚園はリレーしてた。」とかぼつりぼつりと背後からコメントが聴こえてまいりました。各地区代表の約30名の方々の中で、1校「1年生でも折り返しリレーを取り入れてます。」という意見もいただきました。私は、全国大会で「非認知能力を育む体育科学習」の愛知県の頑張りを伝え、本校である飯塚東小学校は、今年度全学年で安全面に配慮し、発達段階を考慮した全員リレーを各学年ごとに行い仲間意識を高め感動を分かち合います。と説明しました。

本校の、特別活動の研究でもご指導いただいている、元福岡教育大学教職大学院教授であられ、現在、東筑紫短期大学教授の脇田哲郎先生も、飯塚東小学校の今年の運動会の取り組みである、「リレー」について、「保育園でも幼稚園でも実践してますよ。大いに賛成します。非認知能力の育成に寄与（効果や好影響）します。先生方や子ども達、保護者の方々にエールを送ります。他の学校は、コロナを言い訳に、指導の楽なほうに傾いている傾向にあり、仲間との話し合いや、仲間意識の高め合いなど非認知能力の育成は念頭に置いていないのかもしれないね。・・・」と脇田哲郎先生は私の取材に真摯に誠意をもって応えていただきました。お忙しい中心からお礼申し上げます。本日の写真にありますように、今は、上級生に習ったり、お試して学級や学年で実践したりしています。健康や安全に配慮し、各学年の体力面等の発達段階を考慮した福岡県で全国に先駆けたコロナ禍明けの各学年全員リレーの本格的な練習が、来週9月30日（火）からスタートします。※県の小学校の会議後の残り30校の中からも、「おかげでうちでも安全に配慮しつつ、低学年を含めた各学年全員リレーします！」という学校が増えて、福岡県の子も達が、自尊心や自信や思いやりや感動を負けても勝っても仲間意識を高め、共に健闘をたえ合う心を持った子ども達が増えることを祈っております。

P.S.1 本校は学年によって2クラスと3クラスの編制ですので、全学年が、1クラスを紅白半分に分かれます。その後、学年によって紅が2チームや3チームになったり、白が2チームや3チームになったりします。ここで大切なのは、各チームの色のメンバーの走る合計タイムがほぼ同じチーム編成にして、今後練習が進んでいきます。第1走者が遅れていても、最終走者で必ず逆転可能なチーム編成に先生方はなされます。誰かがお友達をカバーし、友情のバトンをつないでいくのです



6年生の皆さんのお試しリレー練習光景

4年生の皆さんのお試しリレー練習光景

P.S.2 技術委員の山川先生と、黒屋久美子教頭先生が2組8本のリングバトンを夏休み中に製作してくださいました。（ありがとうございます*^_^*）

